

ネットの負荷を監視

通信量解析
で共同研究 イオノスが東大と

イオノス(東京都品川区、大徳園井社長、03・5759・8166)は、東京大学と共同で、ネットワークのトラフィック(通信量)を解析して膨大な量のデータを送りつけるサイバー攻撃に対処する技術の研究を始めた。東京大学国際・産

学共同研究センターと契約。期間は1年で、07年3月に全体評価を行う。共同研究により解析技術を精緻にするとともに、技術の認知度を高め、販売に弾みを付ける。東大は政府機関をはじめとするネットワーク環境の保全に、イオノスのトラフィック解析技術が重要であると判断した。対象となるのはネットワークのトラフィック解析によるサイバー攻撃への対処技術の研究。通常、サイバー攻撃が行われる時は膨大なトラフィックがネットワーク上を流れる。イオノスは平常のトラフィックを把握しておき、一時的に膨大なトラフィックが流れた時に通信を自動的に切断・復旧する技術を開発。過大な電流が流れると自動的に回路を遮断するプレ

ーカーになぞらえ「トラフィックブレーカー」として製品化。これまでに防衛庁や東京都世田谷区などに納入している。